



▲上段：現地調査用の地図を作成する支援者（塩竈市、1次行動）。下段：避難所で食品を渡す支援者（石巻市、2次行動）

自治労復興支援活動に区切り

全国の仲間の支援に心から感謝

4月10日に開始された自治労復興支援活動が、7月10日に終了した。この活動は、震災対応で心身ともに疲弊した組合員の負担軽減を通じて復旧・復興を支援すること目的に行なわれたもので、3ヶ月間でのべ10,038人が気仙沼市・石巻市・東松島市・塩竈市・名取市・岩沼市の6自治体で支援行動を実施した。活動で示された自治労の力を県本部全体で確認しあい、今後の活動の糧としたい。

4月11日から6月4日までの第1次行動は、1チーム5人の編成・32チーム160人を基本に、避難所運営、罹災証明の発行・現地調査、流失物の受付など多岐にわたる業務を担当していただいた。支援先は、気仙沼市・石巻市・東松島市・塩竈市・名取市・岩沼市の6自治体。6月5日～7月10日までの第2次行動は、1チーム2人の編成・22チーム44人を基本に、気仙沼市・石巻市・名取市の避難所運営を担つていただいた。

深刻なマンパワー不足に陥った被災地自治体では、行政支援やボランティアなどで、多くの人が支援行動をいたしました。



氣仙沼市職員労働組合
執行委員長

佐々木 守

震災を団結して乗り越えていく

行なつてきたが、組合員・職員の負担軽減を目的とした行動は自治労ならではの活動。被災地の単組からは「支援行動で、夜は家に帰れるようになつた。本当に感謝している」「支援者に避難所の運営を担つてもらひ、本来の支所業務に専念でき、本当に助かった」など、感謝の言葉が寄せられている。

支援に訪れた全国の仲間からは、「職員の負担軽減が図れただことで、やりがいを感じた」などの声が出される一方で、「圧倒的に人手不足。これでは、公共サービスを担えない」総合支所を含めた外部職場の声

組合員の負担軽減・復興に貢献

全国からのべ1万人が活動を展開

自治労みやぎ

発行所
全日本自治団体労働組合
宮城県本部
発行人 及川光行
仙台市青葉区二日町7-23
TEL (022) 222-6814
FAX (022) 217-1241

メールアドレス
miyagi@ubcnet.or.jp

当面の日程

- 7月23日（土）
 - 女性部第9回常任幹事会
 - 青年部第7回常任幹事会（仙台・木町通市民センター）
 - 公共民間労組協議会第10回総会（宮城自治労会館）
- 7月26日（火）
 - 連合宮城平和集会（ハーネル仙台）
- 7月27日（水）
 - 東北地連書記協議会2011総会（宮城自治労会館）
- 7月28日（木）
 - 第10回執行委員会（宮城自治労会館）
- 7月29日（金）
 - 男女平等推進集会（宮城自治労会館）

支援に訪れた全国の仲間からは、「職員の負担軽減が図れたことで、やりがいを感じた」などの声が出される一方で、「圧倒的に人手不足。これでは、公共サービスを担えない」総合支所を含めた外部職場の声

男女平等推進集会

とき・・7月29日(金) 13:00～
ところ・宮城自治労会館
◇講 師：浅野 富美枝さん
(宮城学院女子大学教授)
◇テーマ：「東日本大震災における
ジェンダーの視点」

組合活動 豆辞典

夏期休暇
この休暇は、
①お盆の時期

前後に休業して帰省する慣習が日本社会全般に普及・定着していること、②体力を消耗しやすい夏場に休暇を設けて労働者の心身の健

度化されたのは1991年だが、自治体ではそれ以前から「職務専念義務免除」が実施されていたところが

「労働時間短縮に逆行する」として引き下げに反対している。今年は震災の影響で各単組の交渉が遅れておりましたが、県内平均は4日（昨年比△0・2日）となっている。

9月1日に第1回期日 不

分限免職の取消求め提訴



石巻市職員労働組合
執行委員長

畠山 實

生活基盤再建に今後もご支援を

県本部・不忘園労組は、7月1日、組合員5人に対する違法・不当な分限免職処分の取消を求め、仙台地方法院に提訴した。原告は不忘園労組元委員長の佐藤正一（県本部執行委員）他4名、被告は白石市外二町組合。訴状では、「職員側に一市外二町組合の定員が定数

9月1日に第1回期日 不

分限免職の取消求め提訴

県本部・不忘園労組は、7月1日、組合員5人に対する違法・不当な分限免職処分の取消を求め、仙台地方法院への転任・構成市町・病院への転任・構成市町・宮城県での雇用が容易な事案であるにもかかわらず、これらの措置を充分検討しておらず、解雇回避義務を果たしていない、③人員整理の必要性はもとより、分限免職を行う予定があるという最も重要な点について一度も説明を行っていないなどの点から、処分の違法性を明らかにしている。

第1回期日は9月1日に行われることが決まった。組合側は今後、当局側の答弁を待つて反論・立証を行つていく方針。



自然の力の前に
は人間の力は本
當に小さなもの
だが、それに無
為・無策が加わ
るとこれは悲劇
だ。▼被災地が
直面しているの
は、衣食住と職
の確保、がれき
処理など、目の前の生
活に横たわる課題だが、震
災から4ヶ月たつても一
向に進んでいない。▼職
住分離、高台移転、農林
水産業の大規模化・集約
化などの復興構想が盛ん
に述べられているが、違
和感を覚える。被災地に
は震災前から現在、そし
て未来に続く生活、生業
がある。一切をリセット
するような復興はありえ
ない。▼6月に出版され
た岩波新書「大震災のな
かで」に東大の加瀬和俊
教授がこんな一文を寄せ
ている。「個人に責任の
ない負担は分かれ合わ
なければならない。肉親を
失つた人々の喪失感を共
にすることはできないが、
その物質的な損害を分
け合うことは充分にでき
る」と。▼国民には負
担を分かち合う用意があ
る」と。政治・行政・企業にそ
の覚悟を求めたい。（W）

東日本大震災にあたり県内・全国各地から大変多くの自治労の仲間の皆さんにご支援ご協力を頂き衷心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。全国支援で行われた避難所運営や思い出の品の整理など多くの被災者が出ています。生活基盤の再建支援や緊急雇用の臨時職員派遣作業については、行政支援をお願い申します。ま

た、被災した組合員宅の清掃作業を行つて頂きました。県内各单組の皆様にもあらためてお礼申し上げます。今回の震災で石巻市職労では、12名の組合員の尊い命が奪われ、自宅が流されたり、被災直後から不眠不休で復旧作業に取り組んでいた我々に対し、全国、県内の自治労の仲間から言葉で表せない程のご支援をいただき、心と体のケアにご活用を！

～東日本大震災で頑張ったあなたへ～
組合員の必読書です

1000時間後のあなたへ
公務員連絡会発行パンフ

多くを失いましたが、前を向き、復興に向かって長い道程を歩み始めています。こんな時だからこそ、仲間と一緒に乗り越えていきます。今後もより一層のご支援をお願いします。

多く運営されています。生活基盤の再建には多くの時間が必要だと考

えます。引き続きご支援ご協力を

仙台市議選 8月28日投票

震災により延期されていた仙台市議会議員選挙が、8月28日投票で実施されることに決まった。この選挙で自治労県本部は、下記の4名の組織内候補と、泉区・石川けんじ(社民現・3期・国労出身)を推薦している。

仕切り直しの選挙となり、各陣営とも7月上旬から体制の再構築に全力を挙げている。地域に密着し雇用・生活につながる復興が求められる中、自治労組織内・民主党公認候補の議席獲得と活躍が必要だ。組合員の皆様の支援をお願いする。なお、県議会議員選挙は12月まで延期される見込み。

組織内候補にご支援を

■現職
常任幹事、自治労県本部
治連盟員。

■現職
社民党宮城県連合
幹事長、仙台市議会経済環
境常任委員、自治労県本部
特別執行委員。

■現職
社民党仙台市議団
代表、仙台市議会健康福祉
委員会委員、自治労県本部
政治連盟事務局長。

■現職
社民党若林支部幹
事長、若林区勤労者協議会
会長、自治労県本部特別執
行委員。

■略歴
1959年仙台市青葉区生まれ。宮城学院女子大卒。1981年仙台市に栄養士として勤務。仙台市職労副委員長、自治労県本部副委員長などを歴任。2007年に仙台市議選に初挑戦するが惜敗。

■略歴
1950年福島県子大卒。1981年仙台市に栄養士として勤務。仙台市職労副委員長、自治労県本部副委員長などを歴任。1985年に仙台市議に初当選。

■略歴
1950年鹿児島県屋久島生まれ。東北大学文学部中退。仙台市職労に勤務。1991年仙台市議に初当選。市議会公営企業委員会委員長などを担う。

■略歴
1953年仙台市若林区生まれ。宮城県工業高校卒。仙台市役所に入職し、天文台・学校施設課などに勤務。仙台市職労書記長、自治労県本部副委員長などを歴任。

*それぞれの共済種目ごとに給付の要件があります。

まず組合のご担当者にお問い合わせ下さい。

①住宅・家財に被害のあった方
②自宅を離れて30日以上避難した方
③配偶者、父母、子、同居の親族がお亡くなりになった、又は行方不明となっている方

■東日本大震災に対する
宮城県の給付状況(7月12日現在)
●総合共済基本型
3,416件 268,070,016円
●団体生命共済
28件 455,750,000円
●火災共済・自然災害共済
1,109件 2,544,943,830円

自治労共済は、迅速で適切な給付を通じて、震災にあわれた組合員の皆様を支援しています



第20回自治労東北地連青女性夏期交流集会が、7月8~10日にかけ、天童グランドホテル舞鶴荘での東日本大震災の影響で、開催された。参加者は、11各県本部が事前の取り組み

19単組498人(宮城は8単組23人)だった。

今回の集会は、3・11の東日本大震災の影響で、

各県本部が事前の取り組み

夏期交なのかなどの声も

出されたが、宮城の今を伝

えたいた仲間もあり、地連の仲間と考へ合うため、参加

を呼びかけた。

集会のメインである職種別反合理化分散会では、復興にむけ懸命に業務にあつていている仲間から「住民を助けたくても助けられない体制に憤りを感じる」との意見が出される一方、支援する側からは「戻れば通常業務が待っている。支援に行きたくても行けない」などの声が出された。この他、山形県本部岡田委員長や角田市職労木幡書記長から講演を受け、労働運動の現状

▲交流のしおりの読み合わせを行なう参加者。震災の影響により、事前の取り組みが不十分であったことから、これまでの青年部・女性部運動の課題を参加者全体で意思統一した。

が不十分なかでの開催となつた。宮城では、参加者集約の段階から「何故今、夏期交なのか」などの声も

出されたが、宮城の今を伝えたいた仲間もあり、地連の仲間と考へ合うため、参加

を呼びかけた。

集会のメインである職種別反合理化分散会では、復興にむけ懸命に業務にあつていている仲間から「住民を助けたくても助けられない体制に憤りを感じる」との意見が出される一方、支援する側からは「戻れば通常業務が待っている。支援に行きたくても行けない」などの声が出された。この他、山形県本部岡田委員長や角田市職労木幡書記長から講演を受け、労働運動の現状

▲交流のしおりの読み合わせを行なう参加者。震災の影響により、事前の取り組みが不十分であったことから、これまでの青年部・女性部運動の課題を参加者全体で意思統一した。

が不十分なかでの開催となつた。宮城では、参加者集約の段階から「何故今、夏期交なのか」などの声も